

Global Space and Technology Convention (GSTC) 2019

参加報告

2019年2月24日



葛岡 成樹



目次

概要	1
感想	1
主な議論	2
(1) ST Engineering Geo-Insights Pte. Ltd 社設立	2
(2) 中国の宇宙開発	2
(3) シンガポールにおける NewSpace	2
(4) 社会経済便益検討	2
ちよつと一言	3

概要

2019年2月14日(木)~15日(金)、シンガポールのホテル The St. Regis Singapore¹にて第11回 GSTCが“Pushing The Innovation Frontier”(「イノベーションの最前線を押し広げる」)というテーマのもと開催された。主催はシンガポールの民間団体である、シンガポール宇宙技術協会(Singapore Space and Technology Association: SSTA)。今年には600人以上の参加があり、スピーカー・パネル登壇者は60人以上、また展示も26社となるアジア有

数の宇宙ビジネス会議である。

また本会議の前日13日(火)の午後、ワークショップと題して日本のスタートアップ企業であるSynspectiveがプライベートセミナーを同じ会場で開催した。

感想

このGSTCは過去には東南アジア各国の宇宙開発プロジェクトを広く扱うイベントであったと聞く。しかし筆者が参加しだした3年前ぐらいから次第に

委員長が泊まったホテルだそう。

¹ 2018年6月の米朝首脳会談時、北朝鮮の金正恩

主権国であるシンガポールの存在感がますます強くなり、タイ・インドネシアなど他の東南アジアの国の姿が見え難くなってきた。東南アジアで唯一民間地球観測衛星を開発・運用しているシンガポールの技術的・経済的パワーが他国を一気にリードしたということであろうか。

もともと東南アジアには欧州諸国政府・民間企業が積極的に進出していた。宇宙の分野でも古くから、フランスが東南アジア諸国の通信衛星や地球観測分野で存在感を示していた。それに対して最近中国の進出が目立つようになってきている。今回のイベントでも中国のプレゼンテーションでは、一帯一路政策に基づいた宇宙情報回廊という概念が紹介され、東南アジアから中央アジア・中東の国での中国の宇宙分野での活動が活発化していることが発表された。

逆に従来タイやベトナムなどへの協力を強力に押し進めてきた日本の宇宙海外連携活動が、最近低調化してきているのが気がかりである。今回日本からは Synspective と Space BD などスタートアップ数社は積極的にプロモーションしていたものの、国はもちろん JAXA・既存宇宙企業からは現地駐在スタッフの参加しかなく存在感に欠けていた。欧州と中国に挟まれて独自路線を模索しているシンガポールとどのように協力関係を構築できるかという観点は、日本の今後の宇宙ビジネスのグローバル展開を考えるうえで重要な一歩になるろう。

主な議論

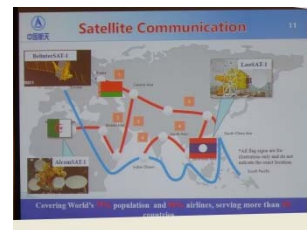
(1) ST Engineering Geo-Insights Pte. Ltd 社設立

<<以下省略>>



(2) 中国の宇宙開発

<<以下省略>>



(3) シンガポールにおける NewSpace

<<以下省略>>



(4) 社会経済便益検討

<<以下省略>>

ちょっと一言

シンガポールへの出張の楽しみは、多数の店舗が集まったホーカーセンターでの夕食である。ホーカーセンターとは屋台や小さな飲食店が連なる中心に共同の席があり、あちこちの店で買ったいろんな料理・飲み物を楽しめる場所である。最近屋外のホーカーセンターとともに冷房の効いた大型ショッピングセンターやデパートの中にできたフードコートも人気ようだ。

シンガポールに来るたびにフードコートで食事を楽しむが、唯一の欠点はアルコールを販売しているホーカーセンター、フードコートが少ないこと。せっかくのおいしい料理をビールなしで食べるのはもったいない。もともとシンガポールは喫煙に厳しいが、最近は飲酒にも厳しくなってきた公的な場所での飲酒がだんだんむつかしくなっているようだ。2015年からは午後10時半～翌朝7時まで公的空間での飲酒および商店での酒類販売が禁止されている。またレストランでの酒類の販売免許制度も種類・時間など複雑なようだ。ことにホテルのあるシンガポール第一の繁華街オーチャードのフードコートでビールを飲める場所は本当に限られる。

出張第一日目の夜はフードコートを探し回ったが、結局オーチャードの繁華街でビールを飲もうとするとレストランしかなかった。しかたなく二日目、以前行ったことのある Newton というホーカーセンターまで東南アジア版 Uber である Grab で行った。ここは数年前に一度リニューアルされたが、雰囲気は以前のまま。小さな店舗が環状に連なっており、



その中で中華・マレー・インドなど各種料理と一緒に食べられる。生ビール・瓶ビールだけを売っている店が料理の店と別にあり、同じテーブルにビールを運んで楽しむことができる。今回は牡蠣のオムレツとシーフード焼きそばをタイガービールで楽しめた。

本報告書へのお問い合わせは：



株式会社 サテライト・ビジネス・ネットワーク

<http://sat-biznet.com>

葛岡 成樹

<https://sat-biznet.com/contact-us/>



ユーロコンサル日本事務所

<http://www.euroconsult-ec.com>

葛岡 成樹